

2026年5月19日
一般財団法人化学及血清療法研究所

第7回『太田原豊一賞』贈呈式ならびに記念講演会 開催のご案内

一般財団法人 化学及血清療法研究所（理事長：馬場秀夫、熊本市中央区）は、感染症領域および血液領域を中心に顕著な功績を上げた研究者を顕彰する『太田原豊一賞』の第7回贈呈式ならびに記念講演会を、2026年5月30日（土）午後4時より熊本城ホール シビックホール（熊本市中央区）にて開催いたします。今回は大阪大学微生物病研究所の飯田哲也教授・山本雅裕教授の2名が受賞し、各受賞者には表彰状・トロフィーのほか、副賞として各1,000万円が贈られます。

記

■ 開催概要

開催日時	2026年5月30日(土) 16:00~17:35 ※受付 15:30~
会場	熊本城ホール シビックホール（熊本市中央区）
プログラム	第7回『太田原豊一賞』贈呈式・記念講演会
主催	一般財団法人化学及血清療法研究所（化血研）

■ 第7回『太田原豊一賞』受賞者・受賞研究テーマ

飯田 哲也 先生	大阪大学微生物病研究所 所長・細菌感染分野 教授
腸炎ビブリオの病原性発現機構に関する研究	
山本 雅裕 先生	大阪大学微生物病研究所 感染病態分野 教授
宿主-病原体・腫瘍相互作用の免疫学的解明と革新的解析技術の開発	

■ 研究業績およびご略歴

■ 飯田 哲也 (いいだ てつや) 先生

受賞研究テーマ：腸炎ビブリオの病原性発現機構に関する研究

[研究業績]

飯田哲也先生は、ビブリオ属細菌のゲノムと病原性に関する先駆的研究を展開してこられました。ビブリオ属細菌は海洋に広く棲息するグラム陰性桿菌で、コレラ菌や腸炎ビブリオといった重要なヒト病原細菌が含まれます。

飯田先生の最も顕著な業績の一つは、腸炎ビブリオの染色体地図作成過程において、本菌のゲノムが2つの環状染色体から構成されることを世界で初めて明らかにされた点です。さらに、この2染色体構造がコレラ菌をはじめとするビブリオ属細菌全体に共通する性状であることを実証されました。細菌ゲノムは1つの環状染色体から成るという従来の常識を覆したこの発見は、細菌学に大きなパラダイムシフトをもたらしました。

その後、腸炎ビブリオゲノムプロジェクトのリーダーとして全ゲノム配列決定に貢献し、世界に先駆けて報告されました。ゲノム解析により本菌が3型分泌装置遺伝子群を保有することを見出し、遺伝子破壊株を用いた実験でこの装置が病原性に重要な役割を果たすことを実証されました。これはビブリオ属細菌における3型分泌装置のヒト病原性への関与を示した初めての報告となりました。さらに飯田先生は、3型分泌装置から分泌されるエフェクター蛋白質、構成蛋白質群、発現制御蛋白質等を系統的に同定し、この装置に関わる分子群のほぼ全容を解明されました。特に、細胞毒性に主要な役割を果たすエフェクター蛋白質 VepA と下痢原性に関与する VopV をそれぞれ同定し、その作用機序を明らかにされました。

また、多様な腸炎ビブリオ菌株の遺伝子レパートリ解析を通じて、ヒト病原性腸炎ビブリオの進化過程を解明するとともに、3型分泌装置遺伝子群が水平伝達により種を超えてコレラ菌等の他のビブリオ属菌にも伝播していることを明らかにされました。さらに、腸炎ビブリオのパンデミック株に特異的に存在するバクテリオファージ f237 を見出し、本ファージが保有する ORF8 がパンデミック株の識別マーカーになることを示されました。また、次世代シーケンサーを用いたメタゲノム解析による病原体検出法を開発し、ヒト臨床検体からの起病細菌の検出を世界に先駆けて報告されています。

このように飯田哲也先生のご研究は、概念的にも方法論的にも細菌学分野に新風を吹き込むものであり、感染症学および生命科学・医学分野の学術研究への多大な貢献が高く評価され、今回の受賞につながりました。



飯田 哲也 先生

[ご略歴]

学歴

1984年	京都大学理学部 卒業
1991年	大阪大学大学院医学研究科博士課程修了 医学博士取得

職歴

1991年	日本学術振興会特別研究員
1992年	大阪大学微生物病研究所 助手
1998年	大阪大学微生物病研究所 助教授
2005年	大阪大学微生物病研究所 感染症国際研究センター 特任教授
2010年-現在	大阪大学微生物病研究所 感染症メタゲノム研究分野 (兼任)
2012年-現在	大阪大学微生物病研究所 病原微生物資源室長 (兼任)
2015年-現在	大阪大学微生物病研究所 細菌感染分野 教授
2016年-現在	大阪大学微生物病研究所 感染症国際研究センター長 (兼任)
2017年-2019年	大阪大学微生物病研究所 ゲノム解析室長 (兼任)
2019年-2023年	大阪大学微生物病研究所 副所長
2020年-現在	大阪大学微生物病研究所 タイ拠点長 (兼任)
2022年-現在	大阪大学ワクチン開発拠点 拠点長補佐 (兼任)
2024年-現在	日本細菌学会 理事長
2025年-現在	大阪大学感染症総合教育研究拠点 感染症・生体防御研究部門副部門長 (兼任)
2025年-現在	大阪大学微生物病研究所 所長

受賞歴

1997年	日本感染症学会 北里柴三郎記念学術奨励賞
2003年	日本細菌学会 小林六造記念賞
2019年	第62回野口英世記念医学賞

山本 雅裕（やまもと まさひろ）先生

受賞研究テーマ：宿主－病原体・腫瘍相互作用の免疫学的解明と革新的解析技術の開発

[研究業績]

山本雅裕先生は、病原性の細胞内寄生原虫であるトキソプラズマを対象とした宿主免疫応答の研究から出発し、近年は抗腫瘍防御機構へと研究を発展させ、世界的な医生物学者として活躍されています。

山本先生の代表的業績の一つは、インターフェロン誘導性 GTPase 群がトキソプラズマの寄生胞膜を破壊する分子メカニズムを明らかにした研究です。この研究における「オートファジー必須分子の非オートファジー免疫機能」という常識を覆す発見は、世界の研究潮流を変える大ブレークスルーとなりました。

山本先生は宿主の免疫応答の解明のみならず、病原体側の病原性機構の解析も遂行されています。トキソプラズマやマラリア原虫が宿主免疫を回避する分子戦略を解明し、宿主－病原体相互作用の双方を深く理解する稀有な「二刀流」研究者として国際的に高く評価されています。

また、日本のトキソプラズマ集団が世界的に特異であることを明らかにし、特に沖縄における強毒株出現の分子基盤を提唱されました。これは日本発の寄生虫学研究として世界に大きなインパクトを与え、日本寄生虫学のプレゼンスを高める重要な成果となっています。

さらに山本先生は、原虫感染細胞とがん細胞に対する免疫応答が「I 型免疫応答を基盤とする非自己認識」という点で共通することに着目し、腫瘍免疫学の分野へと研究を展開されました。腫瘍においてマクロファージの操作による制御性 T 細胞を介した新規免疫抑制機構を明らかにし、腫瘍免疫学における大きな概念的ブレークスルーを成し遂げられました。

これらの目覚ましい業績を支えているのが、先生が独自に開発された革新的技術の三本柱です。第一の *in vivo* CRISPR screen 法は、生体内におけるトキソプラズマ遺伝子の機能を網羅的に解析し、重要な病原性因子を抽出することを可能にしました。第二の VeDTR マウスシステムは、腫瘍や感染組織あるいは自己免疫組織内に存在する特定の免疫細胞集団を自在に操作できる革命的基盤技術です。第三の POPSICLE は、集団遺伝学解析を革新するバイオインフォマティクス手法であり、日本のトキソプラズマ原虫の特殊性や沖縄における超強毒株出現メカニズムの解明に中心的役割を果たしました。

このように山本先生は、宿主－病原体間および宿主－腫瘍間の免疫学的相互作用研究、そして革新的技術開発の三領域で世界をリードし続けており、日本の学術レベル、世界の学術の向上へ大きく貢献されました。日本の寄生虫学分野にとどまらず感染症学および生命科学・医学分野における卓越した研究業績と、今後のさらなる研究発展が大きく期待されることから、今回の受賞となりました。



山本 雅裕 先生

[ご略歴]

学歴

2001年	東京大学理学部生物学科 卒業
2006年	大阪大学大学院医学系研究科 博士課程修了 博士（医学）取得

職歴

2006年	日本学術振興会 特別研究員(PD)
2006年	大阪大学大学院医学系研究科 免疫制御学分野 助手
2007年	大阪大学大学院医学系研究科 免疫制御学分野 助教
2010年	大阪大学大学院医学系研究科 免疫制御学分野 准教授
2012年	大阪大学微生物病研究所 感染病態分野 独立准教授
2013年-現在	大阪大学微生物病研究所 感染病態分野 教授
2018年	大阪大学荣誉教授の称号を付与

受賞歴

2018年	国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED) 第2回日本医療研究開発大賞 AMED 理事長賞受賞
2019年	独立行政法人日本学術振興会 第15回日本学術興会賞
2020年	日本寄生虫学会 第67回小泉賞
2020年	日本微生物学連盟 野本賞
2022年	公益財団法人黒住医学研究振興財団 第58回小島三郎記念文化賞
2025年	日本免疫学会 第28回 日本免疫学会賞

以上

『太田原豊一賞』について

本賞は、感染症領域および血液領域を中心に顕著な功績を上げた研究者を顕彰する制度として、2019年に創設されました。当財団の創業者である太田原豊一の名を冠し、「広く公衆衛生の進歩を図り、兼ねて自然科学の昂揚に資する」という財団の使命を体現する事業の一環として取り組んでいます。

財団概要

一般財団法人化学及血清療法研究所

- ・所在地：熊本県熊本市中央区新市街 8-7 TERRACE87 2C
- ・代表者名：理事長 馬場 秀夫
- ・事業内容：1. 生物学的製剤等に関する研究・調査、2. 感染症及び血液領域を中心とした研究等に対する助成・顕彰、3. 医療技術者を養成する事業への協力・支援、4. 医療機関への協力・支援、5. 印刷物の刊行、6. 奨学金の支給、7. 大学・研究機関の後援及び学術集会の開催・後援、8. 地球環境保全に関連する事業、9. その他当法人の目的達成上必要と認める事業
- ・財団サイト URL：<https://www.kaketsuken.org/>

お問い合わせ先

一般財団法人化学及血清療法研究所 企画調整室（広報担当）

[担当] 濱治 和博

[TEL] 096-297-2152

[E-mail] information@kaketsuken.org

=取材について=

贈呈式の取材をご希望される場合は、上記の問い合わせ先までご連絡ください。